

● 主な出版物/主要的出版物 ●

- ◆『東洋文化研究所紀要』 年2冊刊行
《东洋文化研究所纪要》 每年刊行2冊
- ◆『東洋文化』 年1冊刊行
《东洋文化》 每年刊行1冊
- ◆*International Journal of Asian Studies (IJAS)* 年2冊刊行
国际亚洲研究期刊 (*IJAS*) 每年刊行2冊
- ◆紀要別冊/紀要別冊
大木 康『明清江南社會文化史研究』2020
大木 康《明清江南社会文化史研究》2020
- 高橋 昭雄『ミャンマーの体制転換と農村の社会経済史：1986－2019年』2021
高桥 昭雄《缅甸的体制转换和农村的社会经济史：1986－2019年》2021
- ◆叢刊/丛刊
AOYAMA Waka, *An Intimate Journey: Finding Myself Amongst the Sama-Bajau*, 2020.
青山 和佳《一段亲密的旅程—在萨玛、巴瑶族中寻找自我》2020
- ◆東アジア部門美術研究分野報告/东亚部门美术研究领域报告
『中國繪畫總合圖録 第三編 第六卷 総索引』2020
《中国绘画总和图录 第三编 第六卷 综索引》2020
- ◆東洋学研究情報センター叢刊/东洋学研究信息中心丛刊
第33輯 『文書史料にみるカージャール朝期のマーザンダラーンとアブドルマレキー部族』
ベルシア語文書集成9 2022
第33輯 《从文书史料来看卡扎尔王朝时期的马赞达兰和阿卜杜勒马莱基（Abdolmaleki）
部落》波斯语文书集成9 2022
- 第34輯 『部族の記憶を記録する：フィリピン北部ヴァナウの民話』 2022
第34輯 《记录部落的记忆：菲律宾北部瓦纳斯族（Vanaws）的民间故事》2022
- 第35輯 『サファヴィー朝期イランの王室官房書簡記録簿』2023
第35輯 《萨法维王朝时期伊朗的王室官房书信记录簿》2023
- 第36輯 『カージャール朝期の文書史料にみる婚姻と家族』ベルシア語文書集成10 2024
第36輯 《从恺加王朝时期的文书史料来看婚姻和家族》波斯语文书集成10 2024

● データベース/数据库 ●

インド史跡調査／印度史迹调查
(<https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/>)

データベース『世界と日本』／共同研究プロジェクト 政策研究大学院大学田中明彦研究室
数据库《世界和日本》/共同研究项目 政策研究大学院大学田中明彦研究室
(<https://worldjpn.net/>)

アラビア語写本ダイバーコレクション／在戴贝尔收藏中的阿拉伯语手稿
(https://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/daiber/db_index.html)

貴重漢籍善本全文画像／中国珍贵古籍全文数据库
(<http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/>)

明代図像資料三才圖會データベース／明代图像资料三才图会数据库
(http://kande0.ioc.u-tokyo.ac.jp/kande/oki/_t4-e8zy.html)



交 通

本郷三丁目駅（地下鉄大江戸線）から徒歩 5 分
本郷三丁目駅（地下鉄丸の内線）から徒歩 6 分
湯島駅（地下鉄千代田線）から徒歩 9 分

交 通

从本郷三丁目站（地铁大江户线）步行5分钟
从本郷三丁目站（地铁丸之内线）步行6分钟
从汤岛站（地铁千代田线）步行9分钟

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学東洋文化研究所

TEL 03-5841-5833
FAX 03-5841-5898
URL <https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/>
2024年 6 月発行
撮影：野久保 雅嗣

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

东京大学东洋文化研究所

电话 03-5841-5833
传真 03-5841-5898
网址 <https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/>
2024年6月发行
摄影：野久保 雅嗣

 脸书 <https://www.facebook.com/tobunken/>

 X <https://twitter.com/tobunken>

東京大学 東洋文化研究所

东京大学 东洋文化研究所



2024

ごあいさつ

東洋文化研究所

所長 中島 隆博

東洋文化研究所

所長 中島 隆博



東洋文化研究所は、1941年11月26日に、「東洋文化に関する総合的研究」のために創設された東京大学の附置研究所です。本研究所における研究の主な対象地域はアジア諸言語を用いる地域で、西は北アフリカを含むアラビア語圏から東は日本まで、北はロシア連邦を含むアルタイ諸語圏から南はインドネシアまで、ユーラシア大陸を中心に広大な範囲が含まれます。同時に、学問のグローバル化の中、研究の連携地域はユーラシア大陸を超えて、その他の大陸にも及んでいます。

学問分野としては政治、社会、法律、経済、宗教、思想、文化、人類、歴史、考古、文学、美術など多岐にわたっています。この多様性が研究所総体としての広い視野を可能にしています。他方で、多様性を貫いて共通しているのは、アジアの諸地域の社会や文化に根差した固有の考えに寄り添いながら、それをより広い文脈に置き直して、新しい普遍に寄与する意義を探究しようとする姿勢です。それは近代的な学問が前提にしてきた、東洋と西洋を特殊と普遍に割り振るという枠組みからアジア研究を解き放ち、アジア研究のアジア化とアジア研究の普遍化をとともに実践するものです。

本研究所の所員は、国内外に独自の研究ネットワークを持ち、現地調査を行い、国際的な学術会議に参加し、海外研究者との共同研究を行っています。そうした個別の活動に支えられて、本研究所は国内外の研究機関と学術交流協定を結び、実効的な協力関係を数多く構築しています。本研究所の有する漢籍をはじめとした世界でも有数の蔵書の利用や、所員を中心とした研究者たちとの交流を目的として、数多くの海外の研究者が訪問研究員として長期、短期に訪れ、活発な交流を行っています。こうしたことから、本研究所はアジア研究の世界的拠点の一つと呼んで差し支えないかと思います。

人材養成や教育面にも、本研究所は積極的に関与しています。具体的には、日本学術振興会特別研究員や私学研修員などを数多く受け入れ、若手研究者の育成を積極的に行っていますし、所員はそれぞれの専門領域に応じて東京大学の大学院・学部における教育活動にも従事し、今後のグローバル社会を担う人材養成にも力を注いでいます。

アジア研究のアジア化と普遍化のために、本研究所は、2022年度から「グローバルアジア研究（Global Asian Studies）」プロジェクトを独自に立ち上げました。それは従来の「国際総合日本学（Global Japan Studies）」を継承発展させたもので、新しいアジア研究の地平を開くものです。また、ケンブリッジ大学出版局と共同で英文ジャーナル*International Journal of Asian Studies*を発行し続ける一方、優良なアジア研究成果をオープン・アクセスの形で出版する「一流英文出版社とのパートナーシップによるアジア研究成果のオープン・アクセス出版事業」を遂行しています。また、附属施設である東洋学研究情報センターは、アジア研究に関する各種の情報を整理し、全世界に発信しています。

また、東京大学のアジア研究と図書館機能の協働を具現化する「アジア研究図書館（Asian Research Library）」、これまで主に日本語で蓄積されてきた東京大学の人文知を英語の図書として世界に向けて出版する「東京大学英文図書刊行事業（The University of Tokyo International Publishing Initiative, UT -IPI）」、そして外部資金の支援を受け、リベラル・アーツとしての東アジア学の構築を目指す「東アジア藝文書院（East Asian Academy for New Liberal Arts, EAA）」やそれと連動する「潮田総合学芸知イニシアティブ（The Ushioda Initiative of Arts, UIA）」等の全学プロジェクトにおいても、本研究所は中核的役割を担い、東京大学の実育研究の発展に貢献しています。

世界が大きく変動しつつある現代において、東洋文化研究所は、アジア研究の世界的拠点としての負託に応えるべく、所員の研究の多様性とグローバルな研究ネットワークを軸に、アジア研究のアジア化と普遍化を実践して、世界に貢献していきたいと考えています。

所長寄语

東洋文化研究所成立于1941年11月26日，是为了“关于东方文化的综合性研究”而创建的东京大学附属研究机构。本所研究领域所涉及的区域以使用亚洲诸语系的地区为主，西起包括北非在内的阿拉伯语语言圈，东至日本，北起俄罗斯联邦在内的阿尔泰语系地区，南抵印度尼西亚，涵盖以欧亚大陆为中心的广大地区。同时，在学术全球化的大背景下，研究合作的地区亦从欧亚大陆扩展到其它大陆。

本所的学术研究涉及政治、社会、法律、经济、宗教、思想、文化、人类、历史、考古、文学、美术等诸多领域。这种学术领域的多样性，使得整个研究所具有更为广阔的视野。另一方面，贯穿多样性研究的共通之处在于，在秉承植根于亚洲地区社会和文化的独特、固有的思考方式的同时，将其置于更为广博的文脉体系当中，以期探索其新的普遍性。意在将亚洲研究从作为近代学术前提的、将东方和西方划分成特殊和普遍的研究框架中解放出来，同时推行亚洲研究的亚洲化及普遍化。

本所研究人员，不仅在国内外拥有独立的研究网络，而且时常进行实地调研、参加国际学术会议以及与海外学者开展联合研究等活动。在这种以个人为中心的研究活动的支持下，本所以与国内外研究机构签订学术交流协议，建立了许多有效、广泛的合作关系。还有众多海外学者，为求利用本所藏有的、以汉籍文献为首的世界级珍稀文献，并与作为本所核心成员的学者们进行学术交流，以“访问研究员”的身份长期抑或短期来所，进行着活跃的学术交流。正因如此，本所堪称亚洲研究的世界中心之一。

不仅如此，本所还积极参与人才培养和教育事业。具体而言，包括接收日本学术振兴会特别研究员和日本国内其它研究机构的研修学者等，注重培养年轻学者。同时，研究所成员结合自身专业领域，在东京大学的各研究生院和本院系从事教学活动，致力于培养未来在国际社会中发挥主导作用的顶尖人才。

为实现亚洲研究的亚洲化和普遍化，在之前的“全球综合日本研究(Global Japanese Studies)”项目的基础上，本所于2022年单独设立了“全球亚洲研究(Global Asian Studies)”项目，开辟了全新的亚洲研究视野。并且，在继续与剑桥大学出版社联合出版英文期刊《国际亚洲研究期刊(International Journal of Asian Studies)》的同时，为推动以“开放获取”形式出版卓越的亚洲研究成果，持续推行着“与一流英文出版社合作的亚洲研究出版物开放获取式出版事业”。此外，作为研究所附属机构的东洋学研究信息中心，不仅整理了有关亚洲研究的各种信息数据，而且已将其传播至世界各地。

除上述外，本所在包括将东京大学的亚洲研究和图书馆功能的协作具体化的“亚洲研究图书馆(Asian Research Library)”、将东京大学主要以日语积累的人文知识以英文书籍的形式面向世界出版的“东京大学英文图书刊行新措施(The University of Tokyo International Publishing Initiative, UT-IPI)”、以构筑作为自由学术的东亚学为目标的“东亚艺文书院(East Asian Academy for New Liberal Arts, EAA)”和与其联动的“潮田综合学艺知新措施(The Ushioda Initiative of Arts, UIA)”等全校项目的实施过程中，发挥了不可替代的核心作用，同时为东京大学的教育研究事业之发展做出了重要贡献。

在百年未有之大变局的现代，东洋文化研究所希冀通过践行亚洲研究的亚洲化和普遍化，在成员研究领域的多样性及其全球研究网络的基础上，为世界做出应有的贡献，并藉此完成作为亚洲研究的世界中心这一使命。

◀所員の研究テーマ▶

汎アジア研究部門	
教授 菅 豊	東アジアの自然と文化
教授 松田 康博	中国と台湾の政治・外交研究、中台関係論
教授（兼）名和 克郎	ネパールおよび南アジアの人類学
准教授 藏本 龍介	仏教の人類学
准教授 佐橋 亮	東アジアの国際関係と大国政治

東アジア研究部門	
教授 真鍋 祐子	朝鮮民族社会の伝統文化とナショナリズム
教授 小寺 敦	中国古代家族史
教授 中島 隆博	東アジアの世界哲学
教授 板倉 聖哲	宋元文人の絵画表象
教授 塚本 麿充	中国絵画をめぐる歴史と文化
准教授 田中 有紀	中国の科学と音楽の思想
准教授 上原 究一	中国明清時代の出版文化と通俗文学

南アジア研究部門	
教授 青山 和佳	東南アジアの経済と倫理
教授 古井 龍介	南アジア古代・中世初期史
教授 馬場 紀寿	上座部仏教の思想と歴史
准教授 小川 道大	南アジア社会経済史

西アジア研究部門	
教授 秋葉 淳	オスマン帝国史
教授 榊屋 友子	イスラーム地域における美術と社会
教授 森本 一夫	ムスリム諸社会の宗教社会史
准教授 渡邊 祥子	マグリブ近現代史

新世代アジア研究部門	
教授 佐藤 仁	東南アジアにおける資源と相互依存
教授 園田 茂人	「動くアジア」の比較社会学
准教授 額定 其劳	比較アジア法制史
特任准教授 河原 ノリエ	アジアのユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）をめぐる学際癌研究
講師（兼） バッタジット タンシンマンコン	東南アジアの歴史叙述と対外認識
助教 キム ジユン	韓国におけるグローバル・モビリティーの社会文化史

国際学術交流室	
准教授 柳 幹康	中国仏教の思想と歴史
特任准教授 クリストファー ガーティス	現代日本研究
助教 上田 遥	東アジアの食文化とフードシステム
特任助教 崎濱 紗奈	沖縄近現代思想史及び辺境東アジアにおけるポストコロニアル理論

情報・広報室	
助教 廣田 輝直	

URA担当	
助教 菊池 百里子	アジア海上交易史：陶磁器・銭貨

東洋学研究情報センター	
教授（兼）板倉 聖哲	東アジア美術造形資料の研究
教授（兼）榊屋 友子	イスラーム地域造形資料の研究
教授（兼）小寺 敦	中国出土資料の研究
教授（兼）松田 康博	中国と台湾の政治・外交研究、中台関係論

▶所員の研究題目◀

汎亚洲研究部門	
教授 菅 丰	东亚的自然与文化
教授 松田 康博	中国与台湾的政治・外交研究、两岸关系
教授（兼）名和 克郎	尼泊尔及南亚的人类学
副教授 藏本 龙介	佛教的人类学
副教授 佐桥 亮	东亚的国际关系和大国政治

东亚研究部門	
教授 真锅 祐子	朝鲜民族社会的传统文化与民族主义
教授 小寺 敦	中国古代家族史
教授 中岛 隆博	东亚的世界哲学
教授 板仓 圣哲	宋元文人の绘画表象
教授 塚本 磨充	围绕中国绘画的历史与文化
副教授 田中 有纪	中国的科学和音乐的思想
副教授 上原 究一	中国明清时代的出版文化与通俗文学

南亚研究部門	
教授 青山 和佳	东南亚的经济和伦理
教授 古井 龙介	南亚古代・中世初期史
教授 马场 纪寿	上座部佛教的思想与历史
副教授 小川 道大	南亚社会経済史

西亚研究部門	
教授 秋叶 淳	奥斯曼帝国史
教授 榊屋 友子	伊斯兰地域的美术与社会
教授 森本 一夫	穆斯林社会的宗教社会史
副教授 渡边 祥子	马格里布近现代史

新世代亚洲研究部門	
教授 佐藤 仁	在东南亚的资源与相互依存
教授 园田 茂人	“变化中的亚洲” 的比较社会学
副教授 额定 其劳	比较亚洲法制史
特任副教授 川原 范枝	围绕亚洲全民健康保险（UHC）的学際癌症研究
讲师（兼） Pattajit TANGSINMUNKONG（陈玉珍）	东南亚的历史叙述与对外认识
助教 金 知允	韩国的全球流动性社会文化史

国际学术交流室	
副教授 柳 干康	中国佛教的思想与历史
特任副教授 Christopher GERTEIS	现代日本研究
助教 上田 遥	东亚的饮食文化和食物系统
特任助教 崎滨 纱奈	冲绳近代思想史及边境东亚的后殖民主义理论

信息・広報室	
助教 广田 辉直	

URA负责人	
助教 菊池 百里子	亚洲海上贸易史：陶瓷与钱币

东洋学研究与信息中心	
教授（兼）板仓 圣哲	东亚美术造型资料的研究
教授（兼）榊屋 友子	伊斯兰地区造型资料的研究
教授（兼）小寺 敦	中国出土资料的研究
教授（兼）松田 康博	中国与台湾的政治・外交研究、两岸关系